

# 斜里平野の魅力

—人と自然による景観形成の歴史—

特別展通信 Vol. 2

R5(2023).6.1

斜里町立知床博物館

知床博物館 第42回特別展

と き 9月23日(土)～12月17日(日)

ところ 知床博物館 交流記念館ロビー

博物館では斜里平野の人と自然の営みに注目した特別展を開催します。この通信はその準備の様子をお知らせするために毎月発行しています。

今回は斜里平野への移住と開拓の基盤となった区画について探ってみます。格子状の道路や防風林や畑の起源は、134年前の明治22年に実施された「殖民地選定調査」と、その後の「区画測設」にまで遡るのです。



斜里平野の格子状区画

## 明治前半のできごと

明治元年(1868) 明治維新
明治2年(1869) 函館に開拓使設置/蝦夷地を北海道に改称
明治3年(1870)
明治4年(1871) 廃藩置県/札幌に開拓使移転
明治5年(1872) 5支庁/斜里郡は根室支庁管轄
明治6年(1873)
明治7年(1874)
明治8年(1875) 琴似に屯田兵移住
明治9年(1876)
<b>明治10年(1877) 赤上に鈴木養太入地</b>
<b>明治11年(1878) 赤上に櫻井惣次郎他2名入地</b>
明治12年(1879)
<b>明治13年(1880) 斜里に戸長役場設置</b>
明治14年(1881)
明治15年(1882) 3県1局/斜里郡は根室県
明治16年(1883)
明治17年(1884)
明治18年(1885)
明治19年(1886) 北海道庁設置/斜里郡は根室支庁
明治20年(1887)
明治21年(1888)
<b>明治22年(1889) 斜里平野殖民地選定調査</b>
明治23年(1890)
明治24年(1891)
<b>明治25年(1892) 斜里簡易教育所(斜里小)開設</b>
明治26年(1893)
明治27年(1894)
明治28年(1895)
<b>明治29年(1896) 鈴木養太赤上で水稻試作</b>
明治30年(1897) 野付牛(北見市)と湧別に屯田兵移住
<b>明治31年(1898) 斜里/アッカベツ殖民地開放</b>
<b>明治32年(1899) 以久科に高橋菊太郎、赤上に 石川芳次入地</b>
明治33年(1900)

表2-1

## 5 北海道の開拓政策

明治維新を画期とした日本の近代化は、政府による西欧諸国に対抗した殖産興業や富国強兵策を軸に進められましたが、その背景では旧士族への対策や移民対策としての新たな土地開発が行われていました。北海道では明治7年(1874)から開拓と対ロシア警備を目的にした屯田兵村の建設が始まり、さらに原野開拓のための移民の受け入れが進められていきました。

北海道庁では明治19年(1886)から4年をかけて道内原野を対象に「殖民地選定調査」を行っています。斜里平野(原野)は明治22年(1889)に実施され、有望な「原野」として後の区画測設によって「斜里原野殖民地区画図」や「アッカベツ殖民地区画図」などが作成されました。

これらの図を基に一定の条件を満たせば官有地である原野を開墾者に払い下げる「殖民地開放」が行われたのです。

## 6 斜里への移住

明治維新の78年前(今から233年前)の寛政2年(1790)に松前藩がアイヌとの交易を商人にゆだねるための「シャリ場所」が開設されました。さらに、文化4年(1807)に津軽藩士殉難事件が起こり、その約40年後の弘化3年(1846)から安政5年(1858)にかけて松浦武四郎が4回にわたって斜里を訪れています。

江戸時代後半から明治時代前半の斜里は市街地でアイヌとの交易や漁業がおこなわれていましたが、明治10年(1877)の鈴木養太の赤上(朱円)入地を皮切りに平野部への入地が始まりました。さらに、明治31年(1898)の殖民地開放によって組織的な移住も行われるようになり、湿地や森林の開墾が始まりました。

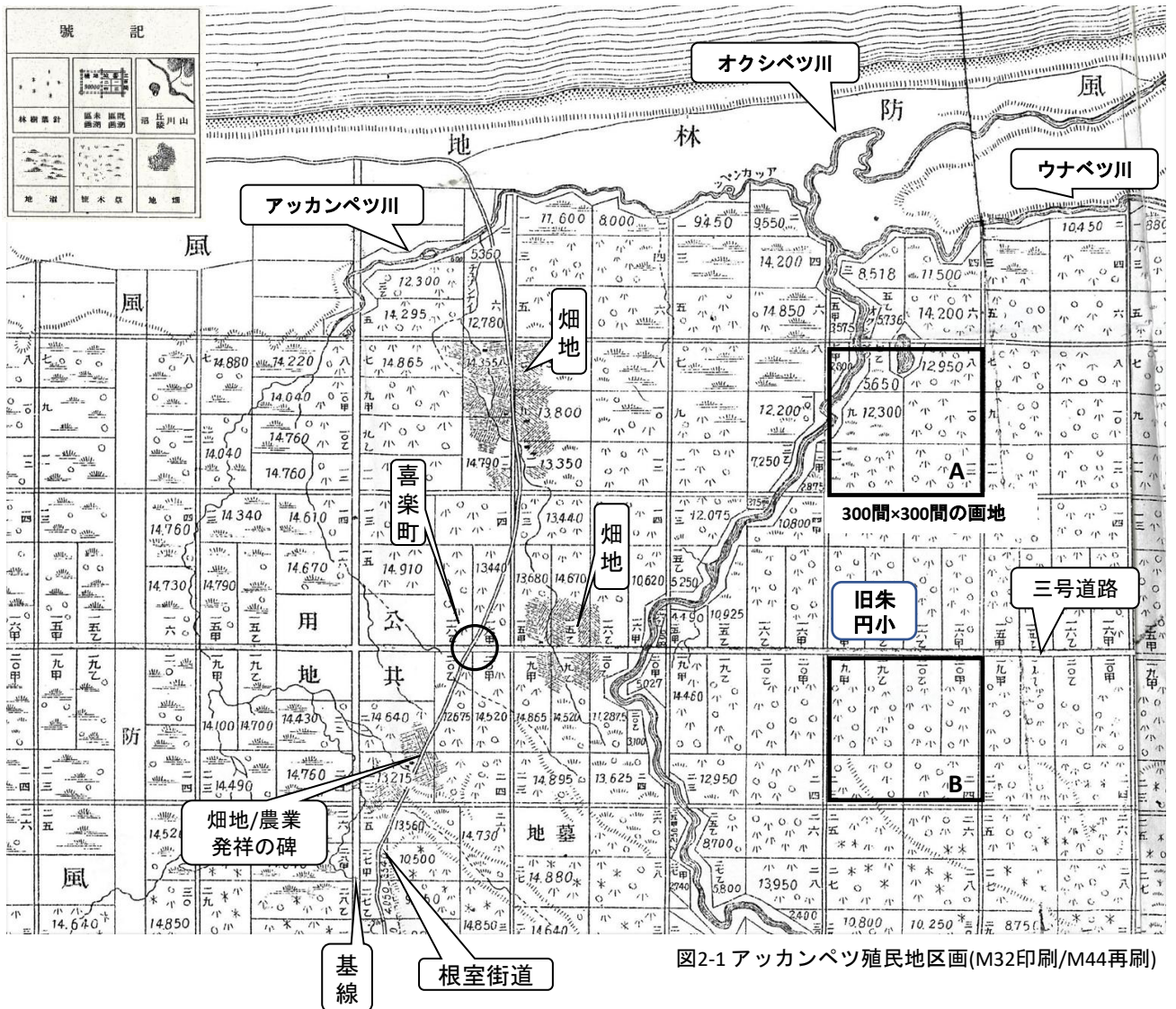


図2-1 アッカベツ殖民地区画(M32印刷/M44再刷)

## 7 斜里平野の殖民地区画

「アッカベツ殖民地区画図」いろいろ

1. 明治20年(1887)代の朱円地区の様子で、この頃は「赤上/あかがみ」と呼ばれた。
2. 号線道は幅6間、三号は10間、基線は15間。
3. 基線と三号道路(現国道)の交点付近は公共用地と表記され、農地ではなく市街地を想定していたと思われる。
4. 明治30年代には根室街道と三号道路の交点付近(○の場所)に20戸ほどの市街ができ「喜楽町」と呼ばれ賑わっていた(斜里町史2)。
5. 図中のAとBのように300間四方の画地を設け、さらに6分割して1戸分の区画とした。
6. 全体にはAのような6分割(等分)だが、三号道路の両側ではBのように、道路に面した間口は狭いが奥行きのある区画になっている。
7. 区画内の数字は「坪数」。
8. 入植地(開墾地)だけでなく、道路に沿った住居や市街地、墓地などの配置も行われた。
9. 当時はアッカベツ川が奥薬別川と合流し、東進して東7線の北で海に注いでいた。
10. アッカベツ川から西側は湿地だった。
11. 根室街道沿いなどに住居と思われる記号(■)が見える。

斜里平野の殖民地区画は「斜里原野」「アッカベツ」「上斜里原野」「止別原野」などに分けられていました。区画は前号のコラム1で記載したように、基線と直交する基号線を軸に道路を作り、基準になる300間四方の画地と、それを6等分して区画を設けていきました。

上の図2-1はその一部(現在の朱円地区)です。当時あった道路は根室街道くらいでしたがその周辺には畑地も見られます。三号道路(現国道)と根室街道の交差点周辺には公共用地を配し、風防林地、墓地なども計画されています。このように計画的な開拓が進められていったのです。これらの区画が現在の斜里平野の景観の原点になっているのです。

知床博物館 特別展通信 Vol 2  
 文責 学芸員 村田良介  
 〒099-4113 斜里町本町49番地  
 TEL:0152-23-1256